

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「徒然草 ～亀山殿の御池に～」問題

亀山殿の御池に、大井川の水を^①まかせ^アられ^イんとて、大井の土民に^②仰^セて、水車を^③造^ラう^セ^エられ^オけり。多くの錢を^④賜^ヒて、数日に^⑤營^ミ出^ダして、^⑥掛け^カたり^キけるに、^シけり。

大方^⑦廻^ラぎ^ケれば、とかく^⑧直^シこ^ケれども、つひに^⑨廻^らで、いたづらに^⑩立^テ^サり^シけり。
さて、宇治の里人を^⑪召^シして、^⑫こしらへ^スさせ^セられ^ソければ、やすらかに^⑬結^ヒて^⑭参^ラせ^タたり^チけるが、^⑮思^フッやうに^⑯廻^りて、水を^⑰汲^ミ入^ル事^メでたかり^テけり。

万に、その道を^⑱知^レト^ル者は、やんごとなきものナ^リ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「徒然草 亀山殿の御池に」 解答

サ下二(未)

尊敬 意志

サ下二(用)

亀山殿の御池に、大井川の水を^①まかせ^アられ^イんとて、大井の土民に^②仰^セて、水車を

ラ四(未) 使役 尊敬 過去

サ四(用)

カ下二(用) 完了 過去

造ら^ウせ^エられ^オけり。多くの錢を^④賜^ヒて、数日に^⑤嘗^ミみ出だして、

サ四(用)

タ四(用) 存続

大方^⑦廻^ラぎり^ケければ、とかく^⑧直^シこ^ケれども、つひに^⑨廻^ラで、いたづらに^⑩立^テたり^キけるに、

ラ四(未)

タ四(用) 存続

過ぎ シけり。

サ四(用)

サ四(用)

サ下二(未)

使役

尊敬 過去

さて、宇治の里人を^⑪召^シして、^⑫こしらへ^スさせ^セられ^ソければ、やすらかに^⑬結^ヒて^⑭参^ラせ

ハ四(用)

サ下二(未)

使役

尊敬 過去

たり^チけるが、^⑯思^フッやうに^⑯廻^リて、水を^⑰汲^ミ入^ル事めでたかり^テけり。

ラ四(用)

サ下二(未)

使役

尊敬 過去

完了 過去

ハ四(用)

サ下二(未)

使役

尊敬 過去

サ四(用)

サ四(用)

サ下二(未)

使役

尊敬 過去

過ぎ

<p